

第10回政府現地対策本部会議・第13回熊本県災害対策本部会議 議事録

日時 平成28年4月19日（火） 16:30～

場所 県庁新館8階 職員研修室

1 地震の状況

別添資料のとおり。

2 被害の状況

死者は南阿蘇村で1名増えて45名。（県警）

所在不明8名。その他家屋被害等資料参照。

避難者数等、各機関の対応状況資料参照。

3 県等の対応状況

（総務部）

被災市町村への人的支援状況について、自治体間での支援状況をまとめた。

県職員は情報収集ということで各自治体に1名～4名派遣。

県外自治体からの県内自治体への支援は135名。厚生労働省からの保健師等の派遣もあり。

（企画振興部）

JR九州の豊肥本線熊本～肥後大津間は運転中。

阿蘇くまもと空港は、15時に国内線ターミナルが部分的に再開。

（健康福祉部）

避難者に対し、エコノミークラス症候群予防対策のチラシを配付するなどの周知。保健師チームも健康チェック等実施。

（環境生活部）

水道施設対応中。人吉で濁水による断水を実施していたが、復旧。

廃棄物に関しては、広域的な処理を実施。

（商工観光労働部）

経産省の官房長が現場入り。アイシン九州の被災状況を視察。

（農林水産部）

農業用ため池で緊急放流を実施。農業関係被害で生乳の廃棄が発生。野菜の選果場、畜舎、ハウス施設で被害が日を追うごとに増えている。

（土木部）

公営住宅受入可能戸数について、県営住宅は現在0戸だが精査中であり空き住戸から見直しを行っている。

（企業局）

前回から変更なし。

（教育庁）

学校の被害状況報告。

(県警本部)

益城～植木間で緊急車両の一部通行可能。植木 I C で警察車両を配備。渋滞は解消している。

(九州電力)

停電状況の報告。

(西部ガス)

供給再開、閉栓状況（進捗率 75.2%）について報告。

被災地の料金の特別措置について、経済産業省に申請し認可された。

4 国等の対応状況

(内閣府)

今回の大規模災害で世間から非常に注目され、それぞれのオペレーションが難しくなっている。各機関ひとつひとつ工夫して協力していきたい。

(消防庁)

緊急消防援助隊は南阿蘇村を捜索活動中。

(自衛隊)

避難所で物資が不足している状況。輸送力はまだあるため、物資が届いたら速やかに輸送ベースに乗せるため関係機関の協力をお願いしたい。

(気象庁)

13時現在で地震回数累計612回。本日は数が減っており、震度5以上は発生していない。

(国土交通省)

道路の通行箇所は県からの報告のとおり、復旧については県へ協力する形で続けて一部は国のほうで施工していきたい。

(海上保安庁)

給水・入浴支援、一部は支援物資の搬送を実施。

(J R九州)

本日からJ R東日本が復旧に参加。夜間も作業を実施。

(熊本市交通局)

被害はあと1箇所（レール沈下）対応中。一部を除き運転再開している。

5 政府現地対策本部長の発言

(松本副大臣)

皆様ご苦労様。

先ほど2時間、二つの町を視察した。

市電が走っていることに勇気づけられる。熊本は復興に向かっている。

マンションのベランダに洗濯物を見ると水が復旧し、暮らしが戻りつつあると感じる。

コンビニの何もなかった棚におにぎり、サンドイッチがおかれ、荷物が届くのを一日3回、4回、5回と増やしてもらいたい気持ち。

道路は思ったより綺麗にごみ回収ができています。電気、ガス、水道の復旧など暮らし

の基本が回復してきている。

6 県災害対策本部長の発言

(蒲島知事)

連日の懸命な捜索、避難者の支援、お疲れ様です。

先ほど南阿蘇村において、新たに1名の方の死亡が確認され、今回の地震災害による死亡者数は、45名となった。

そして、いまだ所在不明の方が8名。自衛隊、消防、警察、海上保安庁等の防災関係機関の皆様方には、全員の救出を目指して全力を尽くしていただくようお願いする。

余震を警戒しながらの避難生活が長期化し、被災者の方々の不安と疲労も大変大きいものがあると思う。私も先日、益城町の保健福祉センターを訪問し、被災者の皆さんの避難生活の実情を詳しく知ることができた。

現場で救済活動をされている方は、今後も引き続き、被災者の方々が必要とされているものを的確に把握し本部につなぐなど、現場と本部の連携を更に密に取りながら、生活支援に精一杯努めていただきたい。

全国の皆様から、心温まる多くの義援金をいただいている。本当に感謝申し上げます。

また、先ほど、日本財団が「平成28年熊本地震」への緊急支援として、90億円を超える支援策の第一弾を決定したとのビッグニュースが飛び込んできた。

突然の報告に、驚きとともに、今回の決断に対する感謝の気持ちで胸がいっぱいになった。熊本県民を代表して、心から感謝申し上げます。

今回の日本財団からの緊急支援では、家屋損壊等に対する見舞金の支給や住宅・事業再建資金のための融資制度の創設等を考えておられる。特に、熊本県民の誇りである「熊本城」の再建に対する30億円もの支援は、県民が復旧・復興に向け立ち上がる大きな力になる。

更に、水道、電気、ガスなどのライフラインや、道路、鉄道、空港などの交通インフラも着実に復旧しつつある。

特に、空港については、本日から到着便に続き、出発便についても午後3時に再開した。

一日も早い復旧復興を目指して、国と地方、行政と民間といった垣根を越え、皆さんと一緒に頑張っていきたい。よろしく願います。

(以 上)